



第30号(最終号)
2016年3月4日
この通信は生徒と保護者の皆様に向けて、編集・発行しています。

答辞

窓から差し込む明るい日差しに、春の訪れを感じる季節になりました。

三年前の春、真新しい制服に身を包み、中学校という新たな世界に、期待と不安で胸をふくらませながら、私たちは旭中学校へ入学しました。校舎も体育館も全てが広く、先輩方がとても大人に見えました。いつか自分たちも先輩方のようになれるんだと思うと、これからの生活に無限の可能性を感じました。

お互い初めてのことがばかりで上手くいかないこともあった一年生。それでも時間が経ち、みんなも慣れてきてからは楽しい日々を送ることができました。

さまざまな行事に真剣に楽しく取り組んだ二年生。最大のイベント、高遠でのキャンプでは努力の結晶である火の舞やユーモアあふれる有志発表、具が大きすぎたカレー、夜、先生にばれないようにここそ話した好きな子の話など全ての出来事が大切な思い出になりました。

三年生になると、「最上級生」や「受験生」・「卒業生」と呼ばれるようになり、さまざまなプレッシャーや残りわずかな学校生活に、少し焦りを感じるようになりました。また全ての行事に最後という言葉がつくようになり、後悔したくないという思いから、何事にも真剣に取り組むようになりました。

修学旅行では、小学生の時とは違う視点から歴史を見ることができ、自分たちの成長を感じました。体育大会の学年種目、全員リレーでは、一人一人が持てる限りの力を発揮し、全員でバトンをつなぐことができました。また大縄跳びは放課中やL.T、授業後に何度も何度も練習し、本番に臨みました。しかし本番で私のクラスは練習の成果を発揮することはできず、悔し涙を流しました。それは、みんなで練習を重ね、良い結果を残そうとしたからだだと思います。そんな悔し涙も今では良い思い出です。

文化発表会の合唱では、声がそろわなかったり、音程が取れなかったりと、合唱の難しさを改めて感じました。しかし、どのクラスも「自分たちが一番」という思いで一生懸命努力し、本番では練習以上の最高の歌声を響かせることができました。歌い終わったときには、クラス全員が一つにまとまり、強い絆を感じました。

一つ一つの行事が終わるごとに、卒業が近づいていることを感じ寂しさと共に、楽しい思い出が増え、自分のクラスが大好きになりました。

私は三年間の中学校生活の中で、学校行事と同じくらい忘れられない思い出がありました。それは部活動です。私は剣道部に在籍していました。夏の暑さや冬の寒さ、朝早い練習や土日の厳しい練習も一緒に乗り越え、同じ目標に同じ気持ちで打ち込んだ仲間。時に意見が対立し、ぶつかることもありました。意見を言い合うごとにお互いを理解でき、大会に向け、全員の気持ちを高めることができました。試合で感じた団結力、負けた時に感じた悔しさ、全てを共に分かち合いました。朝早くから私たちのために指導して下さった顧問の先生方。先生方は、土日や祝日まで練習に来てくださり、私たちが強くなるために一緒に戦って下さいました。本当に感謝でいっぱいです。

今日までの三年間、私たちはたくさんの方の支えがあり、ここまで成長することができました。私たちの登下校を見守って下さった地域のみなさま。地域の方からの毎朝のあいさつに励まされ、今日も頑張ろうと思えました。ありがとうございました。

毎日を一緒に楽しくしてくれた友達。いつもわがままを言ったり無茶なお願いをしたりしても、「仕方ないな」と言って笑顔で聞いてくれてありがとう。私が部活をやめたいと言った時も、話を聞き、一緒に悩んで泣いてくれてありがとう。

悩んでいるときに私たちが何も言わなくてもいつも気づいて下さった先生方。友達関係や進路で悩んだ時も笑顔で話を聞いて下さいました。先生方の「大丈夫。頑張ろう。」という言葉で私たちは何度も救われ勇気づけられました。

そして私たちが生まれてから今日まで、たくさんの愛情で育ててくれた両親。いつも優しく温かく見守ってくれ、私たちを第一に思ってくれました。時に厳しく私たちが足を踏み外さぬよう正してくれました。私たちは入学したあの日から少しは大人になれたのでしょうか。いつもは照れくさくて言えないけれど、お父さんお母さん本当にありがとう。

在校生のみなさん、私たちについてきてくれてありがとう。二年生になった頃は先輩になったという実感がわかなかつたけれど、あなたたちが先輩と呼んで頼りにしてくれたことでより頑張ろうと思えました。三年間はあっという間です。日常を大切に、この素晴らしい旭中でたくさんの思い出をつくらしてください。

三年間歩いた通学路、通い続けた学校、思い出のつまった教室。全ての場所が全ての他愛のない会話が、今では宝物です。

中学校を卒業し、私たちは別々の道へ進みます。みんなと離れると思うととても寂しいですが、みんなと過ごした思い出があれば、どんなときも強く前へ踏み出せると思います。

私たち310人は旭中でのかけがえのない時間を胸に、未来に向け、一歩ずつしっかりと歩いていきます。

平成28年3月4日
卒業生代表 山本 百花